

# 教育改革の方向性について

---

平成27年11月21日（土）

どのような能力が養われていないのか。

○正確な知識・技能を習得すべき段階

知識・技能



まずは、この習得が前提  
(高等学校基礎学力テスト等による確認)

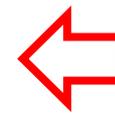
習得に向けた繰り返し学習も必要

○論文を書くための思考力を身につけるべき段階(マークシート偏重人材からの脱却)

知識・技能

思考力・判断力・表現力

英語力(4技能)



論述式の導入

深い思考力を問う  
新方式の導入

○研究力・他者をリードする力を身につけ、プロジェクトを始動し、先導すべき段階

知識・技能

思考力・判断力・表現力

英語力(4技能)

主体性・多様性・  
協働性

高校時代の活動を評価



Routine Cooperative Labor の輩出から  
Creative Collaborative Art Worker の育成に向けて

人工知能には解答できない問題と向き合える人材  
～Singularity以後の世界を生き抜くために～

「書を読み、友や師と語り、仲間と何かを為す」

# 「学力の三要素」と「生きる力」について

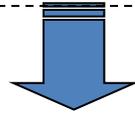
## 〈現行学習指導要領の理念〉

- 平成10～11年改訂の学習指導要領の理念は「生きる力」を育むこと
- 「知識基盤社会」の時代において「生きる力」を育むという理念はますます重要
- 教育基本法改正等により教育の理念が明確になるとともに、学校教育法改正により学力の重要な要素が規定

### ○ 学校教育法（昭和22年法律第26号）

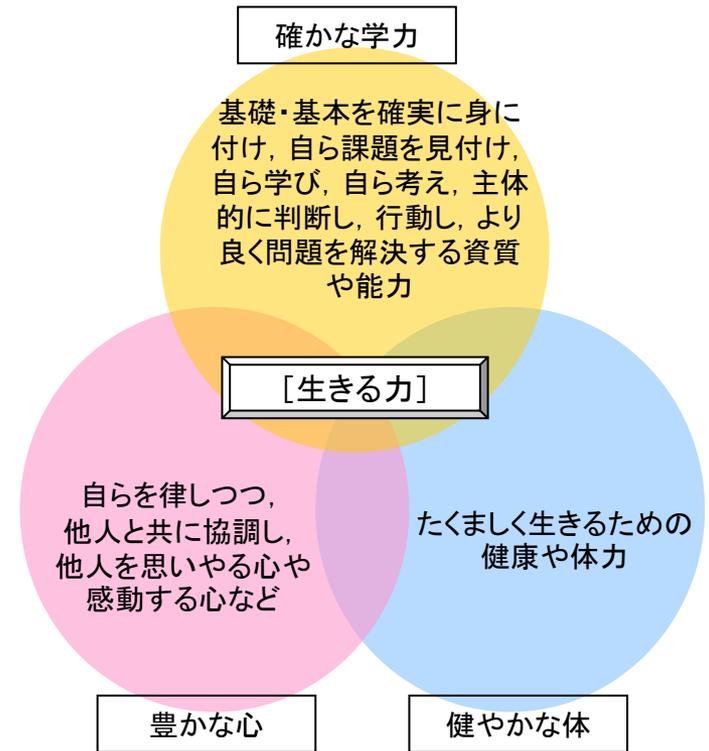
#### 第30条（略）

- ② 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。



現行学習指導要領においては、これまでの理念を継承し、教育基本法改正等を踏まえ、「生きる力」を育成

「ゆとり」か「詰め込み」かではなく、これからの社会において必要となる知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」をより効果的に育成



新しい時代に必要となる資質・能力の育成

①「何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)」

各教科等に関する個別の知識や技能など。身体的技能や芸術表現のための技能等も含む。

②「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」

主体的・協働的に問題を発見し解決していくために必要な思考力・判断力・表現力等。

③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(人間性や学びに向かう力等)」

①や②の力が働く方向性を決定付ける情意や態度等に関わるもの。以下のようなものが含まれる。

- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。
- ・多様性を尊重する態度と互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会作りに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど

## 何ができるようになるか

### 育成すべき資質・能力を育む観点からの 学習評価の充実

#### 何を学ぶか

育成すべき資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- ◆ グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化(小学校高学年での教科化等)や、我が国の伝統的な文化に関する教育の充実
- ◆ 国家・社会の責任ある形成者として、また、自立した人間として生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善(地理歴史科における「地理総合」「歴史総合」、公民科における「公共」の設置等、新たな共通必修科目の設置や科目構成の見直しなど抜本的な検討を行う。) 等

#### どのように学ぶか

アクティブ・ラーニングの観点からの  
不断の授業改善

- ◆ 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか
- ◆ 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
- ◆ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか

主体性・多様性・協働性  
学びに向かう力  
人間性 など

どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか

どのように学ぶか  
(アクティブ・ラーニングの視点から  
の不断の授業改善)

学習評価の充実  
カリキュラム・マネジメントの充実

何を知っているか  
何ができるか

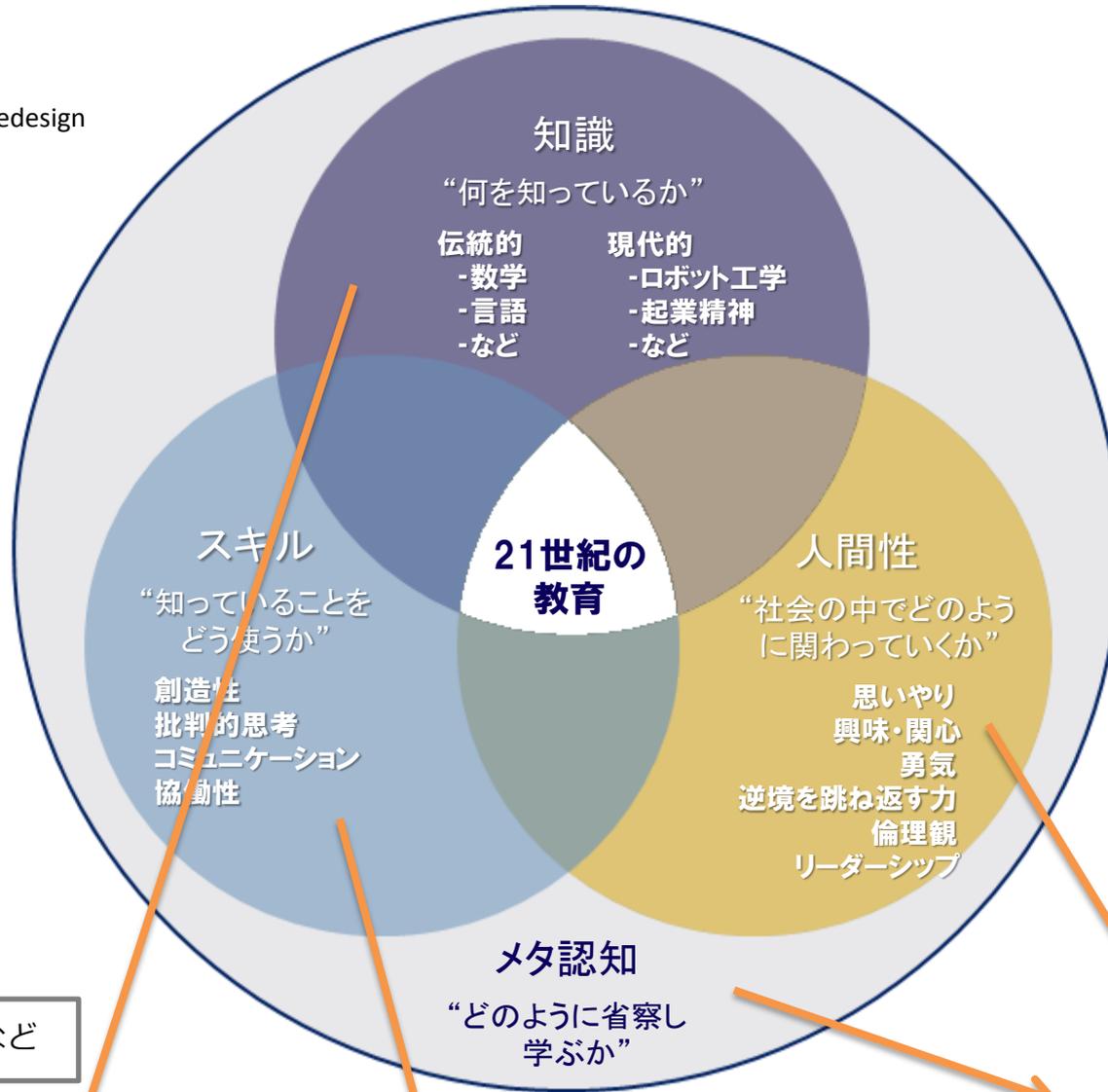
個別の知識・技能

知っていること・できる  
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

# カリキュラム・デザインのための概念と、「学力の三要素」の重なり

(図) Center for Curriculum Redesign



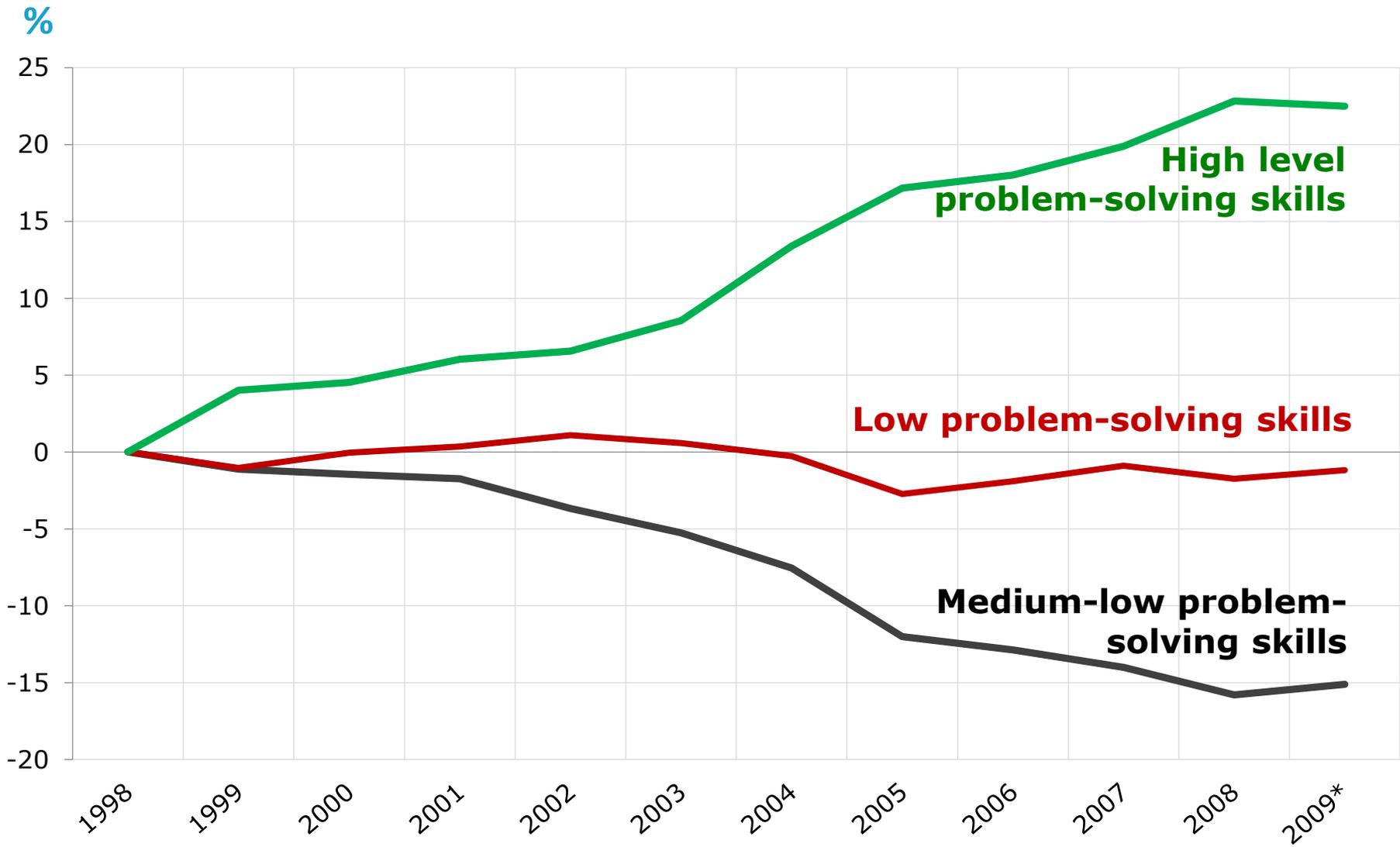
学校教育法30条2項など

個別の知識・技能

思考力・判断力・表現力  
等

主体性・多様性・協働性  
学びに向かう力  
人間性 など

# Evolution of employment in occupational groups defined by problem-solving skills



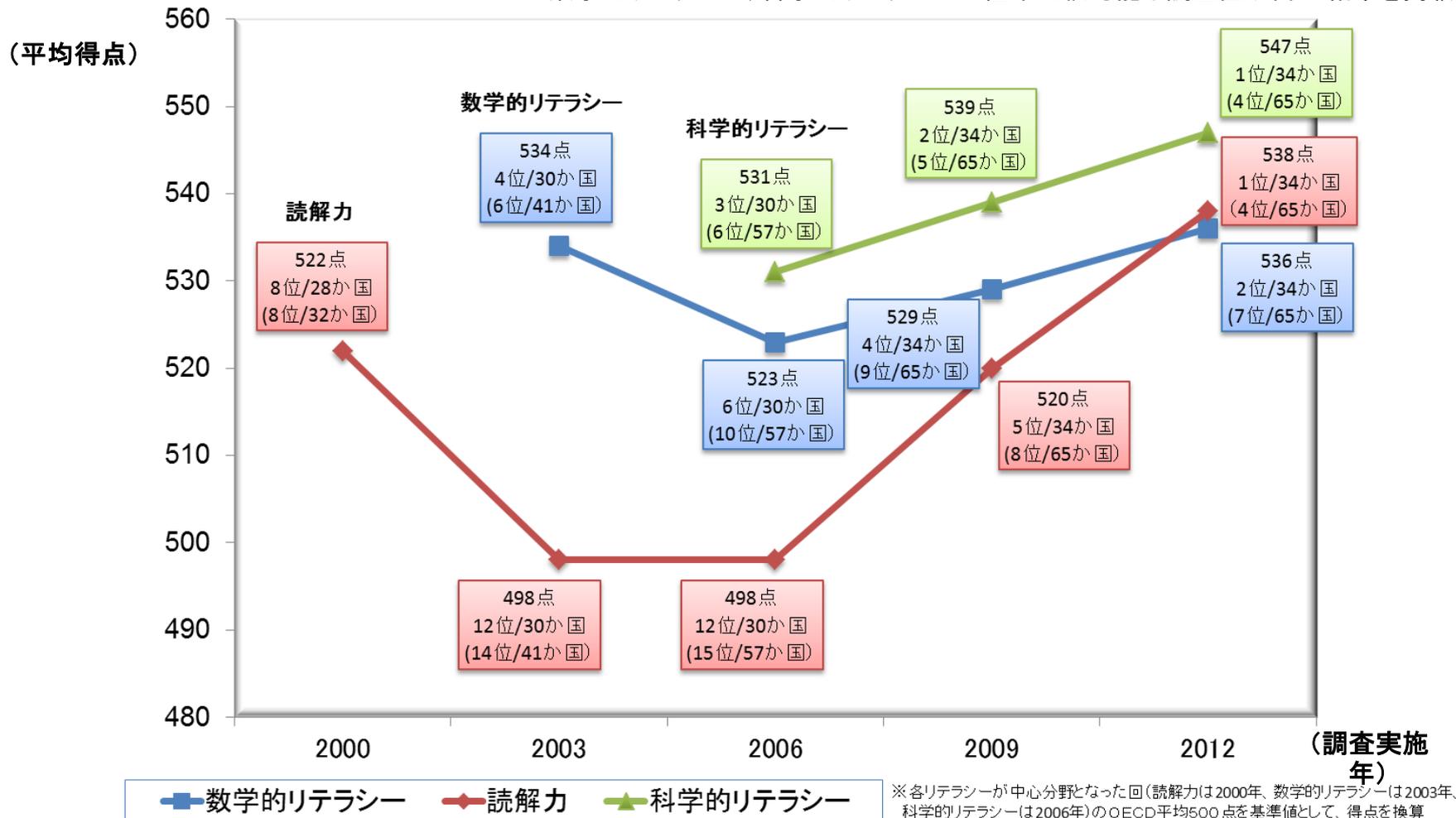
# 質の高い初等中等教育（我が国の15歳の学力は世界一）

◆OECD生徒の学習到達度調査(PISA)によると、34加盟国中

我が国15歳の生徒の数学的リテラシー2位、読解力1位、科学的リテラシー1位の総合1位。

## 平均得点及び順位の推移

※PISA調査:OECDが15歳児(我が国では高校1年生)を対象に実施  
 ※順位はOECD加盟国中(カッコ内は全参加国・地域中の順位)  
 ※数学的リテラシー、科学的リテラシーは経年比較可能な調査回以降の結果を掲載

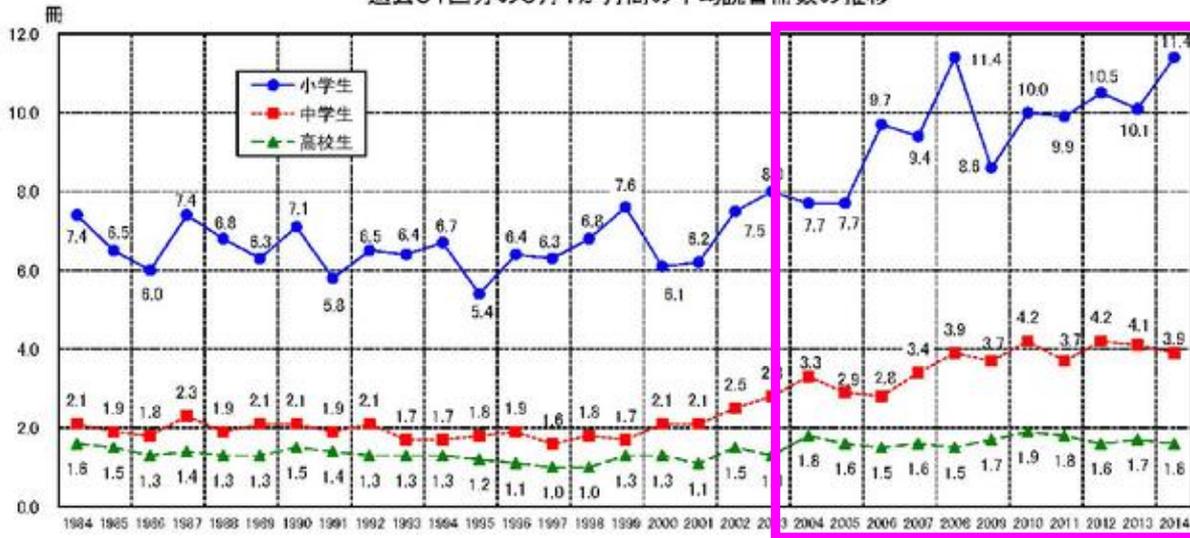


(出典) 文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査(PISA2012)のポイント」

# 「書を読み、友や師と語り、仲間と何かを為す」高校時代を送っていない。

※第60回読書調査より(全国学校図書館協議会は毎日新聞社と共同で、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について毎年調査を実施。)

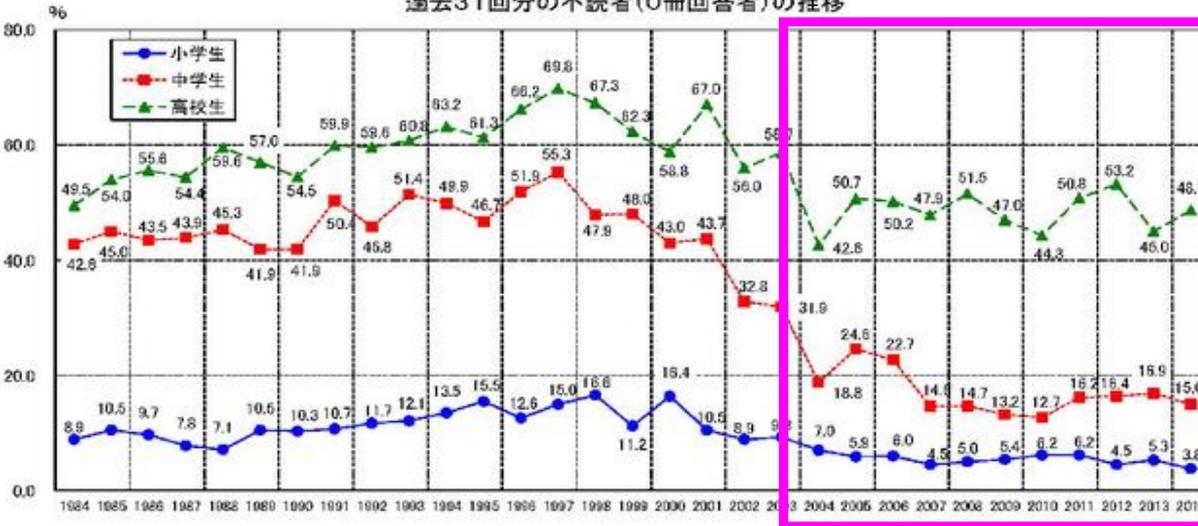
過去31回分の5月1か月間の平均読書冊数の推移



○2014年5月の1か月間の平均読書冊数は、  
小学生は11.4冊、  
中学生は3.9冊、  
高校生は1.6冊になっている。

○昨年度に比べ、小学生は大きく増加したが、  
中学生・高校生は減少している。

過去31回分の不読者(0冊回答者)の推移



○この調査では、5月の1か月間に読んだ本が  
0冊の生徒を「不読者」と呼んでおり、今回の  
調査の結果では、

不読者の割合は、  
小学生は3.8%、  
中学生は15.0%、  
高校生は48.7%

となっている。

○昨年度と比べ、小学生・中学生は減少した  
が、高校生は増加している。

◆小・中学生に比して、高校生の読書活動は、ここ10年ほど改善がみられない。

「書を読み、友や師と語り、仲間と何かを為す」高校時代を送っていない。

○授業や学習指導において心がけていること(質問項目は一部抜粋)

	高等学校		中学校	
	全体	国語	全体	国語
教科書にあることを丁寧に教える授業	44.8%	52.8%	33.8%	35.9%
教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業	57.1%	52.8%	50.3%	44.1%
児童生徒がグループで話し合い、考えなどをまとめる授業	6.5%	7.3%	25.9%	34.1%
児童生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業	12.2%	9.3%	12.8%	17.7%
本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業	29.3%	27.5%	45.0%	49.5%
小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に児童生徒に学習状況の評価を知らせる授業	34.7%	54.4%	29.2%	48.2%
宿題を定期的に出す授業	16.2%	22.8%	8.9%	9.1%



- ◆教科書教材等への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業が行われる傾向。
- ◆話し合いや論述など「話すこと・聞くこと」「書くこと」における学習が低調。

※「学習指導と学習評価に対する意識調査報告書」財団法人日本システム開発研究所(平成21年度文部科学省委託調査報告書)より

「書を読み、友や師と語り、仲間と何かを為す」高校時代を送っていない。

※「特定の課題に関する調査(論理的な思考)調査結果」(国立教育政策研究所、平成25年3月)より

### 国語に関連の深い調査問題における主な課題

- 人文科学に関する文章(国語辞典の記述)を読み、文章の特徴を的確にとらえ、それを基に活用できるかどうか把握する問題においては、文章の記述を基に、辞典の特徴を約7割の生徒がとらえていたのに対し、**文章の内容を評価し、目的に応じて適切に活用することができる生徒は約4割にとどまった。**

### 生徒質問紙の結果

- **論理的な思考力を一般的な表現形式で問う問題については、7割以上の生徒が解いたことがないと回答しているが、7割以上の生徒がこのような問題を解く力が社会で必要だと回答。**

### 教師質問紙(国語)の結果

- 授業における言語活動を通じた指導の10項目の実施について、肯定的な回答をした教師の平均は約4割であった。肯定的な回答が3割に満たなかった項目は、「**文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択して資料にまとめる**」、「**調査したことなどをまとめて報告する**」、「**課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり、報告書や論文にまとめたりする**」の3項目。



◆**高校生の思考力・判断力・表現力の一部、特に、深い思考と表現に課題。**

◆**メディアリテラシーや課題探究に関する言語活動等が行われていないという課題。**

学習指導要領は、何を定めているのか。  
今後、どのように変貌を遂げていくのか。

---

## 現行学習指導要領は何を定めているのか。

- 現行の学習指導要領において、その改定のポイントとして、「思考力・判断力・表現力」「主体性」を育むことが明記されている。

### ○高等学校学習指導要領

#### 総則：教育課程編成の一般方針（抄）

各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階や特性等を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、**基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。**その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

# 改訂の方向性として考えられる構成（案）

《現行科目》

国語表現

現代文A

現代文B

古典A

古典B

国語総合  
【共通必修科目】

- ・教材の読み取りが中心になりがちで、国語による主体的な表現等が重視されていない。
- ・話し合いや論述など、「話す・聞く」「書く」ための学習が低調。
- ・古典の学習について、日本人として大切にしてきた文化を現代に生かそうという観点が弱く、興味が高まらない。
- ・情報活用能力という観点から、映像も含む多様なメディア表現から情報を読み取り、表現していく力が必要。

## 選択科目の在り方

近代以降の口語体の文章(現代文)を中心に、古典としての古文・漢文を含めて扱うなど、総合的な国語の能力を育成する科目

多様な文章等から得た情報を基に自分の考えをまとめ、適切な構成等で表現する能力を育成する科目

文学的な文章(小説、随筆・随想、脚本等)を読んだり書いたりする能力を育成する科目

古典としての古文・漢文を読むことを通して、我が国の伝統的な言語文化への理解・関心を深める科目

## 共通必修科目の在り方

実社会・実生活に生きる国語の能力に関する科目

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」といった、表現に関わる能力の育成を重視
- ・話し合いや論述などの活動を重視
- ・ビジュアルリテラシーの育成に対応する「みること」を指導

古典を含む我が国の言語文化に関する科目

- ・古典及び古典以外の文章に関わる言語文化を理解し、社会や自分との関わりの中で生かす学習を重視
- ・「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を中心とする指導

《改訂の方向性(案)》

# 歴史科目の今後の在り方について（検討素案）

現行歴史系A科目

課題

資質・能力

新科目のイメージ

## 世界史A

- 1 世界史へのいざない
- 2 世界の一体化と日本
- 3 地球社会と日本

関連付け

## 日本史A

- 1 私たちの時代と歴史
- 2 近代の日本と世界
- 3 現代の日本と世界

①世界史や日本史の学習は大切だと考える生徒は増加。一方、近現代の学習の定着状況が、他の指導内容に比べて低い傾向。

②世界史か日本史かの二者択一ではなく、グローバルな視野で現代世界とそこでの日本の過去と現在、未来を考える歴史認識を培うことが必要との指摘。

③調べたことを発表させる活動や課題解決的な学習を取り入れた授業等が十分に行われていない。

○自国のこと、グローバルなことを、横断的・相互的にとらえる力

○現代社会の形成過程を理解し、その諸課題を考察する力

世界史必修から、我が国の伝統と向かい合い、今を知るための歴史科目の新設へ

○持続可能な社会作りに参画する態度

○国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚

自国のこと、グローバルなことが影響しあったり、つながったりする歴史の諸相を学ぶ科目「歴史総合」(仮称)

- 日本の動向と世界の動きを関連付けて捉える。
- 現代的な諸課題を歴史的に考察するため、近現代における、歴史の転換等を捉えた学習を中心とする
- 歴史の転換の様子を捉える「継続と変化」、因果関係を捉える「原因と結果」、特色を捉える「類似と差異」などの、歴史の考察を促す概念を重視する
- 歴史の中に「問い」を見出し、資料に基づいて考察し、互いの考えを交流するなど、歴史の学び方を身に付ける

## <参考>

現行中学校社会科の歴史的分野の学習では、我が国の歴史の大きな流れの理解をねらいとしている。(各時代の特色を捉える学習他)

# 地理科目の今後の在り方について（検討素案）

現行地理A科目

課題

資質・能力

新科目のイメージ

地理A

(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察

(2)生活圏の諸課題の地理的考察

①地理は選択必修で、選択者も世界史、日本史に比べて少ないことから、最低限の地理的技能をもたず高校を卒業する者が多い。

②地球環境の危機や防災に関する教育の必要性、地理的思考力や地理情報システム(GIS)などを活用できるスキルの育成等が重要であるとの指摘。

③観察や調査・見学、体験を取り入れた授業等が十分に行われていない。

○地理的な技能  
「実践的な社会的スキルとしてのGIS活用」

○地理的知識と地理的理解  
「地球規模(グローバル)の自然システム、社会・経済システムの知識と理解」

新科目を通じて育成する資質・能力

○地理的な見方や考え方  
「空間概念を捉える力」

○態度と価値観  
「地域、国家的及び国際的な課題解決を模索する献身的努力」(「ルツェルン宣言における『持続可能な開発を実行する地理的能力』による」)

持続可能な社会づくりに必須となる地球規模の諸課題や、地域課題を解決する力を育む科目「地理総合」(仮称)

- 地図や地理情報システムなどの汎用的な地理的技能の育成
- 位置と分布、場所、地域などの概念を捉える地理的な見方や考え方の育成
- グローバルな視点からの地域理解と課題解決的な学習の展開
- 持続可能な社会づくりに関わる資質・能力を育み、以降の地理学習等の基盤を形成

<参考>

- ・中学校の地理的分野において充実した地誌学習により獲得した知識等を活用し、国内外の諸課題等を主題的に扱う。
- ・本科目履修後の地理歴史科の科目や他教科において活用できる、GISをはじめとする地理的な技能や、世界のグローバル化、持続可能な社会づくりといった考え方を身に付けさせる。

# 公民科目の今後の在り方について（検討素案）

## 課題

①積極的に社会参加する意欲が国際的に見て低い

②現代社会の諸課題等についての理念や概念の理解、情報活用能力、自己の生き方等に結びつけて考えることに課題

③課題解決的な学習が十分に行われていない

④キャリア教育の中核となる時間の設定

## 資質・能力

○立場によって意見の異なる様々な課題について、その背景にある考え方を踏まえてよりよい課題解決の在り方を協働的に考察し、公正に判断、合意形成する力

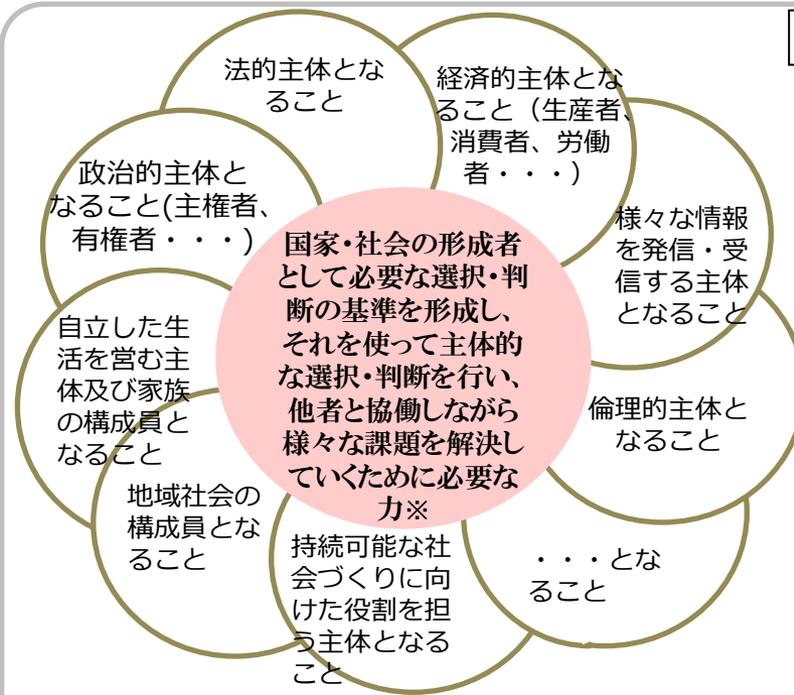
○様々な課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論を習得する力

## 新科目を通じて育成する資質・能力

○公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度

○現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚

## （新科目「公共」（仮称）のイメージ）



## 学習活動の例

討論、ディベート  
模擬選挙、模擬投票  
模擬裁判  
外部の専門家の講演  
新聞を題材にした学習  
体験活動、インターンシップの準備と振り返り・・・

## 関係する専門家・機関

弁護士  
選挙管理委員会  
消費者センター  
報道機関  
留学生  
企業 経済団体  
起業家  
NPO、NGO・・・

## 「公共」の扉（なぜ「公共」を学ぶのか）<仮>

社会的・職業的な自立や社会参画に向けた意識 アイデンティティー 自己実現・・・

## 様々な主体としての私たちの生き方<仮>

社会保障（年金、健康保険等） 情報 消費行動 契約 財政と納税 雇用 政治参加（選挙等） 家族（制度的側面など） 自由・権利 責任・義務・・・

## 持続可能な社会づくりの主体としての私たち<仮>

文化と宗教の多様性 国際平和 社会的な課題発見・解決に向けた探究・・・

※新科目の構成においては、現行の関連する科目だけでなく、各教科・科目等との連携・役割分担を念頭に置きながら検討。  
※具体的なスキル・リテラシーとしてどのような力を、どのような学習活動を通じて育むかという議論も必要。

## <参考>

・学校における道徳教育は、…人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科の属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、適切な指導を行わなければならない。（「高等学校学習指導要領総則第1款 教育課程編成の一般方針」）

# 英語科目の今後の在り方について（検討素案）

現行科目

コミュニケーション英語基礎

コミュニケーション英語Ⅰ

(必修)

コミュニケーション英語Ⅱ

コミュニケーション英語Ⅲ

英語表現Ⅰ

英語表現Ⅱ

英語会話

## 課題

- ・生徒の英語力について、4技能全般、特に「話すこと」と「書くこと」の能力が課題
- ・英語の学習意欲に課題
- ・言語活動、特に、統合型の言語活動（例：聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする活動）が十分ではない
- ・グローバル時代において、英語学習に関する生徒の多様化への対応が必要

発信力が弱い

## 資質・能力

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う

## 科目の在り方

英語による「思考力・判断力・表現力」を高める見直

### 4技能総合型（必修科目を含む）の科目

- ・「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能総合型
- ・複数の技能を統合させた言語活動が中心

外国語教育において世界標準となっているCEFRを参考に、指標形式での目標設定を検討

### 発信能力の育成をさらに強化する科目

- ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの統合型言語活動が中心

高度化・多様化

生徒が実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探求し、英語で情報や考えなどを互いに伝え合うことを目的とした学習

改訂の方向性（案）

# 情報科目の今後の在り方について（検討素案）

## 共通教科「情報」（現行）

### 社会と情報

- 1 情報の活用と表現
- 2 情報通信ネットワークとコミュニケーション
- 3 情報社会の課題と情報モラル
- 4 望ましい情報社会の構築

いずれか1科目(2単位)を選択必修

### 情報の科学

- 1 コンピュータと情報通信ネットワーク
- 2 問題解決とコンピュータの活用
- 3 情報の管理と問題解決
- 4 情報技術の進展と情報モラル

### 改訂の必要性

高度な情報技術の進展に伴い、  
文理の別や卒業後の進路を問わ  
ず、**情報の科学的な理解に裏打  
ちされた情報活用能力を身に付け  
ることが重要**

### 育成する資質・能力 「情報活用能力」

- 情報とそれを扱う技術を問題の発見・解決に活用するための科学的な考え方
- 情報通信ネットワークを用いて円滑にコミュニケーションを行う力

### 高度情報社会に対応 する情報教育

- 情報機器やネットワークを用いて情報を収集・加工・発信する力
- 情報モラル、知的財産の保護、情報安全等に対する実践的な態度
- 情報社会に主体的に参画し寄与する能力と態度

## 新科目のイメージ

情報と情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方等を育成する共通必修科目

- コンピュータと情報通信ネットワーク
- 問題解決の考え方と方法
- 問題解決とコンピュータの活用
- 情報社会の発展と情報モラル

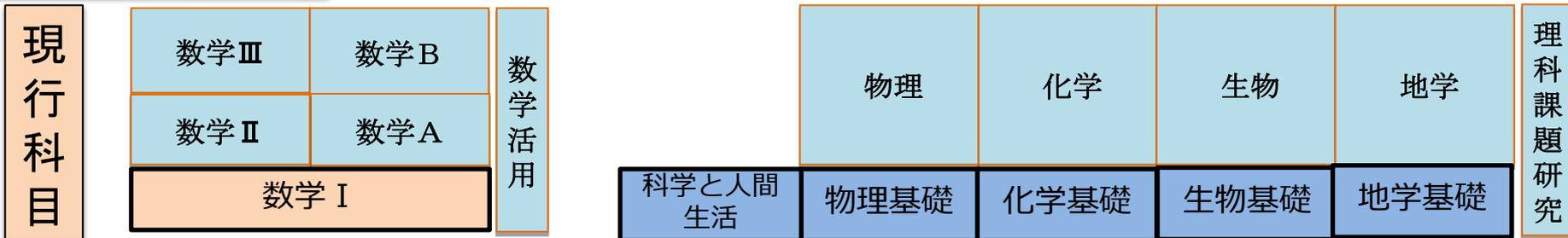
上記科目の履修を前提とした  
発展的な内容の選択科目  
についても検討

関連して、現行中学校技術・家庭（技術分野）における「情報に関する技術」の指導内容の充実、及び小・中学校段階からの各教科等における情報活用能力を育成するための指導の充実についても、検討が必要。

教員の現状としては、他の教科を担当する教員が教科「情報」を兼任していることが多数想定される。

# 高等学校学習指導要領における理数科目の改訂の方向性として考えられる構成（案）

## 普通科の場合



- ・ 数学活用：指導内容と日常生活や社会との関連及び探究する学習を重視。
- ・ 理科課題研究：知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視。先端科学や学際的領域に関する研究なども扱える。
- ・ 課題研究等の活動は生徒の論理的な思考を育成する効果が高いが、あまり開講されていない状況。（1割未満）
- ・ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）で設定されている「サイエンス探究」等では、数学と理科で育成された能力を統合し、課題の発見・解決に探究的に取り組むことで高い教育効果。

## 【諮問文】より高度な思考力・判断力・表現力等を育成するための 新たな教科・科目の在り方について検討

資  
質  
・  
能  
力

○従来の数学と理科の各教科で求められていた資質・能力を統合した科学的な探究能力の育成を図る

◎専門的な知識と技能の深化，総合化を図り，より高度な思考力，判断力，表現力の育成を図る

○課題に徹底的に向き合い，考え抜いて行動する力の育成を図る

### 数 理 探 究 （仮称）

SSHにおける取り組み事例なども参考にしつつ、数学と理科の知識や技能を総合的に活用して主体的な探究活動を行う新たな選択科目

数 学

理 科  
（物理・化学・生物・地学）

◆理数科における科目の在り方についても検討

新  
科  
目  
案

# 科目「体育」の今後の在り方について（検討素案）

## 科目「体育」の改善の視点(案)

- ・生徒の興味・関心の多様化等の現状を踏まえ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成
- ・体育で学習したことを実生活や実社会で生かし、運動の習慣化につなげること
- ・体力の向上を重視した「体づくり運動」の指導を更に充実すること
- ・意欲、思考力、運動の技能の源となる「体育理論」の指導を更に充実すること（オリンピック・パラリンピックの意義・価値等）
- ・指導と評価の一体化に向けた、技能や知識、思考力・判断力等、公正・協力・責任・参画等の態度をバランスよく育む指導を更に充実すること
- ・「する、みる、支える」などの多様なスポーツとの関わり方の推進

## 検討の方向性(案)

- 心と体を一体としてとらえ、心身の調和的発達を図ることができる資質や能力の育成
- 「する、みる、支える」などの視点から、自己に適したかかわり方で、卒業後も運動やスポーツに親しむことができる資質や能力の育成
- 自己の体力や生活に応じて自己の課題の見直しを図り、日常的に運動に親しむとともに体力の向上を図ることのできる能力の育成
- 公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保することができる能力の育成
- 領域の特性に応じて、技能や知識、思考力・判断力等、公正・協力・責任・参画等の態度をバランスよく育むための内容の充実
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、運動やスポーツへの関心・意欲等高めるとともに、他教科等における学習とも連携しながら、大会の成果を未来への遺産として子供たちの中に根付かせていくための学びの充実
- 指導と評価の一体化を充実するための内容及び内容の取扱いの改善
- 実生活、実社会で生かすことを重視し、主体的・協働的に学ぶための内容の取扱い（指導方法）の工夫
- インクルーシブ教育システムの理念を踏まえた内容の取扱い(指導方法)の工夫
- スポーツの推進者を育成するための専門学科「体育」及び「学校設定科目」等の改善

生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成

# 科目「保健」の今後の在り方について（検討素案）

## 改善の視点(案)

### [保健の課題]

- ・実生活や他教科等で活用できる汎用的なスキルを育成する必要がある。
- ・依然として講義を中心とした知識の伝達型授業が多い。

### [学習方法や資質・能力に関する課題]

- ・自他の健康課題を発見し、習得した知識を活用して課題解決する学習を取り入れることが必要。
- ・生徒の論理的な思考力(特に健康課題の解決方法を根拠に基づいて評価し、目的に応じて活用する力)に課題がある。
- ・生徒の健康に関する関心・意欲・態度に課題がある。
- ・生徒のコミュニケーション能力の育成に課題がある。
- ・危険予測や回避する能力、危険行動の抑制に課題がある。

### [保健に関する内容の課題]

- ・少子高齢化や疾病構造の変化による現代的な健康課題の解決に役立つ内容が不十分である可能性。  
例 高齢化に対応した健康寿命の延伸  
少子化に対応した妊娠・出産等の課題  
がんや精神疾患など
- ・自他の生命を守るための安全・安心に係る内容に課題
- ・心身の健康の保持増進とスポーツとの関連に課題

## 保健の育成する資質・能力

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

社会生活を含めた総合的な健康の概念の理解

生涯にわたって健康課題に直面した際に、課題解決を目指して論理的に考え、意志決定・行動選択する力

健康・安全な社会づくりを目指して、他者とコミュニケーションし、健康的な環境づくりに参画する力

健康に関心をもち、自己の健康に関する取組を肯定的に捉えたり、レジリエンスを強化したりする力

## 科目「保健」の在り方

### 健康の保持増進のための総合的な実践力を育成する科目

健康に関心をもち、主体的、協働的に健康の保持増進に取り組む力を育成するとともに、健康・安全な社会づくりに参画する態度を育成すること

現代的な健康に関する課題解決的な学習を展開し、健康に関する思考力、判断力、表現力を養うとともに、それらを自分の生活に生かしたり社会生活に役立てたりする力を育成すること

保健と体育をより一層関連させるため、健康とスポーツの関係を踏まえた内容や資質・能力を検討

## 検討の方向性(案)

## 感性を高め、資質・能力を育成する主体的・創造的な学習活動の充実

- 音や音楽を主体的に捉え、感性を高め、思考・判断・表現する一連の過程を大切にし、根拠をもって自分なりの表現意図をもったり価値判断したりできるよう、「音楽を形づくっている要素の知覚・感受」を全ての音楽活動の支えとなるよう一層明確に位置付けてはどうか。
- 他者と協調しながら音楽表現を生み出したり、音楽に対する価値意識を広げたりできるよう、音楽的な特徴や互いの感じ方、考えなどについて他者と伝え合う活動を一層大切にしているはどうか。またその際、楽譜や音楽に関する用語、記号等を有効なツールとして活用できるようにすることを大切にしているはどうか。

## 音楽文化についての理解を深める学習活動の充実

- 音楽が、国、地域、風土、人々の生活、文化や伝統などの影響を受け、生み出され、育まれてきていることの意味や価値を理解できるよう、音や音楽と生活や社会との関わりについて考えることを一層大切にし、生活の中での音や音楽の働きについて理解を深められるようにしているはどうか。

## 育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にした学習活動の充実

- 表現及び鑑賞の活動を通して育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にして学習活動を充実させるために、これまで以上に表現と鑑賞の相互の関連を図ることや、造形的な視点を豊かにもって対象やイメージなどを捉えたりすることができるような表現や鑑賞の指導を重視すればどうか。

## 豊かな感性や情操の育成

- 感性や想像力を能動的に働かせ、生徒一人一人が主体的に創造活動に取り組むことができるように、豊かに感じ取る力の育成を一層重視し、表現や鑑賞において領域や分野などとそれらに共通して働く資質・能力との関係を整理して示してはどうか。

## 生活や社会の中の美術の働きや、美術文化の理解を深める学習の充実

- 美術文化における、伝統的かつ創造的な側面を重視して理解を深める学習の一層の充実や、表現及び鑑賞の創造活動の喜びを実感的に味わうことができるようにするため、美術を通して生活や社会と豊かにかかわる態度を育むことを一層重視すればどうか。

## 育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にした学習活動の充実

- 表現及び鑑賞の活動を通して育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にして学習活動を充実させるために、これまで以上に表現と鑑賞の相互の関連を図ることや、造形的な視点を豊かにもって対象やイメージなどを捉えたりすることができるような表現や鑑賞の指導を重視すればどうか。

## 豊かな感性や情操の育成

- 感性や想像力を能動的に働かせ、生徒一人一人が主体的に創造活動に取り組むことができるように、豊かに感じ取る力の育成を一層重視し、表現や鑑賞において領域や分野などとそれらに共通して働く資質・能力との関係を整理して示してはどうか。

## 生活や社会の中の工芸の働きや、工芸の伝統と文化の理解を深める学習の充実

- 工芸の伝統と文化における、伝統的かつ創造的な側面を重視して理解を深める学習の一層の充実や、表現及び鑑賞の創造活動の喜びを実感的に味わうことができるようにするため、これまで以上に工芸を通して生活や社会と豊かにかかわる態度を育むことを重視すればどうか。

## 育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にした学習活動の充実

- 感性を能動的に働かせて、生徒一人一人が主体的に表現や鑑賞の創造的な活動に取り組むことができるように、豊かに感じ取る力の育成を一層重視し、各領域や分野の学習に共通して働く資質・能力を明確に位置付けてはどうか。
- 書の伝統と文化を踏まえながら、自らの意図に基づいた表現を構想し工夫していく一連の過程を一層大切にすることはどうか。また、根拠をもって伝え合うことで、書に対する見方や考え方を広げ、新たな価値を見いだすような学習を一層充実してはどうか。

## 書と生活や社会との関わりや、書の伝統と文化の理解を深める学習の充実

- 書の伝統と文化の理解を深める学習の一層の充実や、生活や社会の中で書が果たしている役割について考えることで、書への永続的な愛好心を育み、書を通して生活や社会と豊かにかかわる態度を育成することを重視してはどうか。

# 家庭科目の今後の在り方について（検討素案）

△  
成果  
▽

- ・女子のみ履修であった高等学校の家庭科は、平成6年度から男女必履修となり21年が経過した。「家庭科は実生活に役立つ」、「家庭科を学習してよかった」と、生徒は肯定的に捉えている。
- ・「将来生きていくために重要な科目である。」という意識も高い。

△  
課題  
▽

- ・生活体験が減少している生徒に対して、実験や実習等を取り入れ、現実の生活の中で活用するための実践力や応用力を身に付ける必要がある。
- ・生活上の課題を設定し、解決方法を考え計画を立てて実践するといった問題解決的な学習が効果的に行われていない。

## [学習方法や資質・能力に関する課題]

- ・生活者として自立し、社会に参画するために必要な知識や技術を科学的な根拠に基づいて身に付ける必要がある
- ・問題解決的な学習において、「何を問題とし」「どう解決するのか」について、生徒の興味・関心を踏まえた学習になっていない。

## [学習内容の課題]

- ・将来を見通した生活設計に必要な生活の課題(就職・結婚、各ライフステージで想定される生活上のリスクへの対応方法等)についての内容を充実する必要がある。

△  
改善の視点(案)  
▽

## 家庭科で育成する資質・能力の育成

- 生活を科学的に理解し、生涯を通して安心・安全・健康的な生活を営む実践力を育成する
- 生活の課題を解決するために、様々な年代の人と協働し、コミュニケーションして主体的に参画する力

◆少子高齢社会に対応する力  
(子育て理解、高齢者の理解、生涯生活設計能力)

◆生活課題を解決するために必要な社会参画力、コミュニケーション能力(地域コミュニティを構築)

◆持続可能な社会を構築する力(消費・環境に配慮したライフスタイルの確立)

◆グローバル化に対応する力  
(衣食住の生活文化の継承・発信)

△  
検討の方向性(案)  
▽

## 共通必修科目の在り方

### ○社会の変化への対応

- ・少子高齢社会を踏まえ、乳幼児や高齢者を支えるために必要な知識や技術、コミュニケーション能力を育成

- 生涯を通して、自他の生命を守る衣食住生活の実践力を育成、食育の充実(例 生活習慣病を予防するために生涯を見通して食生活を営む力、災害時等の生活上のリスクに対応した衣食住の知識や技術等)

- 生活者の視点を踏まえた消費者教育の充実(生活情報を収集し、適切に意思決定する力を育成) ※公民科における新科目の在り方と連携

- 地域との交流等を通して社会に参画する力を育成

- 衣食住の生活文化の継承(例 和食、和装、生活を豊かにするもてなし等)

# 総合的な学習の時間の在り方について(検討素案)

## 改善の視点

### 成果

- 総合的な学習の時間への取組が、知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成の両方につながっている 全国学力・学習状況調査の結果、先進校の取組事例より
- 総合的な学習の時間において育むべき力や学びの在り方をカリキュラム・マネジメントの核としながら、学校全体として探究的な学習を行う実践が進められている。 SGH、研究開発学校等

### 課題

- **各学校における指導方法の工夫改善や校内体制の整備等による格差解消**  
一部の学校(特に中学校・高等学校)においては、「ねらいや育てたい力が不明確で、児童生徒自身が、何のために活動を行い、何を学んだか自覚できていない。」「補充学習のような専ら教科の知識・技能の習得を図る教育が行われたり、運動会の準備など学校行事と混同された実践が行われたりしている。」といった事例が見られる。
- **総合的な学習の時間のカリキュラムの適切な編成・実施・評価・改善**  
地域や生徒の実態等の現状を把握した上で、総合的な学習の時間の目標・内容の設定や、全体計画や年間指導計画の作成に適切に取り組めていない学校がある。また、実施状況の評価を改善に反映できていない学校がある。
- **学習成果の検証と社会的価値の発信**  
総合的な学習の時間の重要性は認知されてきているが、そこではぐくまれる資質・能力や態度の具体的な検証や、それらの社会的価値に関する情報発信が不十分である。

## 検討の方向性(例)

### ◆各学校が総合的な学習の時間を通じて育むべき資質・能力の考え方を明らかにする

- 実社会・実生活の課題を探究的に学ぶことにより、教科等の文脈を越えて自ら課題を発見し解決する力や他者と協働する力などの汎用的な資質・能力を育て、それを実社会で活用できるようにすることを重視
- 主に育成する資質・能力や内容、指導方法の例示の体系化、高度化 の検討
- 育成する資質・能力や態度を支える、教科横断的に考える技法を体系的に指導

### ◆学校の教育活動全体における総合的な学習の時間の意義を改めて明確化する

- 各教科等を通じて身に付けた力を総合的に活用できるようにし、地域の課題や社会的要請に対応(国際理解、情報、環境、福祉・健康や防災・安全、地方創生、創造的復興、ESDなど)

## <現状>

- 体育祭をはじめとする学校行事が、各地で学校文化・地域文化の創造に結びついている
- よりよい人間関係を築くこと、自己を生かす能力を養うことの必要性は今後ますます高まると思われる

## <課題として考えられる点>

### ● ホームルーム活動

授業実施時数については改善傾向にあるものの課題の範囲は脱していない。(参考:実施時数)また、合意形成にむけた話し合い活動が日常化されていない課題も残る。

### ● 生徒会活動

生徒会活動の正しい理解が生徒のみならず教員においても十分でない場合がある。  
(生徒会とは生徒会役員の活動のことであるという誤解)

### ● 学校行事

生徒の意欲を尊重しすぎたり、伝統の継承や発展に重きを置きすぎたりするあまり、学校行事が生徒にとって過重負担になっている場合がある。

- 二つの活動と学校行事が、学校全体の取組とならず、担当者任せになっていないか点検の必要がある。

## ◆特別活動で身につけさせたい資質・能力の明確化

- 特別活動において身に付けさせたい、現在及び将来の生活につながる資質・能力を再確認する。
- 積極的な社会参画につながる合意形成にむけた活動(話し合い活動など)の重要性を確認する。

## ◆教育課程全体における特別活動の意義の明確化

※公民科における新科目の在り方との連携も必要

- 特別活動を通じた、望ましい学級集団の形成が、教育課程全体における「主体的・協働的な学び(アクティブラーニング)」を推進する基礎を作るものであることの強調
- 各教科で学んだことを、ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事を通じて、自分自身や学級の実生活に直結させる場であることの強調 (例:ボランティア、防災の実践等)
- 特別活動の目標や成果から学校全体、特に教務部が関わり指導体制を確立することの重要性を明確化